

## <絵は一人で上達するものじゃない> R6 PHP 作文甲子園最優秀受賞作

今日紹介する文章は、絵画に打ち込む、ある生徒の話です。

信じられない気持ちと、ほこらしさを感じていた。それは中学校の部活で初めて入賞したときのことだ。私が所属する美術部の大会は三年間で計四回ある。一年生の大会は秋にあるため、入部してから練習の時間は充分にあった。結果が書かれた紙を先生が読み上げ、名前を呼ばれた人は前に出る。

しかし、その中に私の名前はなかった。同じ学年の友人はほとんどが呼ばれている。一方私は座って拍手をし、入賞者を祝う側にいた。「きっと入賞している」と声をかけ合った友人の名前呼ばれ、とても悔しさを感じてしまった。

それから、次の夏の大会に向けて自分の絵と向き合う日々が始まった。どこをどうしたらよかったのか、どうすれば決められた時間内により技術の高い絵を描けるのか、考え続けた。しかし一向に上達せず、焦る私の前に、進級の時期はすぐにやってきた。

そんなあるとき、一人で上達しようと躍起になっていた私に、先生が言った。

「周りの人の絵を見て技術を取り入れるのも練習だよ」

私は、はっとした。絵は一人で描くものだが、一人で上達するものではなかったのだ。「個人戦ではなく、団体戦」という言葉を思い出していた。先生から言われた通り、みんなの絵と自分の絵を比べてみると、どうすればよくなるのかがすぐにわかった。上達しない日々は終わった。絵をほめられることも増え、上達していることを実感した。

そして迎えた、夏の大会の結果発表。その中には、しっかりと私の名前があった。それまでの努力が報われたようだった。そんな経験をした私は「失敗は成功のもと」だということを、だれよりも実感している。もちろん、どう成功につなげるかは、その人次第だと思う。しかし、悔しい思いを経験することができた私は、いつまでも嘆いたり、一人で考え込んだりするよりも前にできることがあると知った。これからも、それを忘れずに生きていきたいと思う。

読んでみて皆さんはどう感じましたか？美術部ではないから、共感できなかつたと思う人もいるかも知れませんが、私には作者が伝えたかったことは、最後の2行に集約されているように感じました。筆者が伝えたかった「一人で考え込んだりする前にできること」とは何でしょうか？



## <学校評議員会>

2月4日(水)の午前は、第2回学校評議員会を行いました。主な内容は本年度の学校評価の結果説明と授業参観でした。学校評価は前年度よりも評価が高い項目が複数見られる結果となりました。授業参観の後には、ふれあい給食を行いました。学校ではインフルエンザが流行していましたので、生徒会執行部の参加者は2人に制限しての会食とさせていただきましたが、修学旅行や部活動の話などで大変盛り上がりました。学校評議員の皆様、お忙しい中に来校いただきありがとうございます。ありがとうございました。



## <新入生説明会>

2月4日(水)の午後は、新入生保護者説明会でした。右の写真は学校生活について説明する生徒会執行部です。今回の説明会をとおして、保護者、新入生が不安なく入学してくれることを願っています。1年生は先輩に、2年生は最上級生(受験生)に、そして3年生は卒業が近づいていることを感じるのではないのでしょうか。

